



## 創刊第10号を迎えて

安原工業団地協同組合

理事長 米澤卓也

会報『りくつなあ〜』も今号で創刊第10号を迎える事となりました。組合員の皆様には長年のご愛読、本当にありがとうございます。また大平副理事長をはじめとする編集委員の皆様にはそのご労苦に対し心から感謝申し上げます。この『りくつなあ〜』が組合とともに20号30号と歴史を重ね、組合員の皆様の情報ツールとなっていく事を心から祈っております。さて、私をはじめ『りくつなあ〜』に文章を掲載させていただいたのは第2号、今からちょうど4年前の2007年3月でした。その中で『現下の経済状況はいざなぎ景気をこえたといわれ戦後最長の好景気だといわれています。しかしながら生活者の実感としてはどこが好景気?という所が実体です。大企業と中小企業、都市と地方、そういった格差が更に進んでいるような気がします。』と書かせて頂きました。このときの景気はさらに半年あまり続きいざなぎ景気を超えるいざなぎ景気といわれるようになり、さらにその1年後にはリーマンショックに端を発する世界同時不況に突入していきました。

いざなぎ景気の時にも決して充分な好況感をもてなかったわれわれ中小零細企業にとって、この2年半あまりは本当に厳しい時期だったと思います。企業は存続し続けること、そして従業員の雇用を維持していく事がその重要な目的の一つだと思います。この厳しい時期を乗り越えて来る事ができたわれわれにとってぜひ今年は次なる飛躍への準備の年にしていただきたいと思います。幸いにして仕事そのものが本当に無い状態は多くの企業で過ぎたように思われます。今は忙しいけれど思ったほど売上が上がらない状態だと思います。お互い知恵を出し合い中小零細企業の利点を十分に生かした経営を心がけなければならないと思います。そのために組合にできることは何かを今一度考え直した運営を心がけますのでなお一層のご協力、ご支援、ご要望をいただければと思います。

そういった状況の中、以下の点についてご説明するのは非常に心苦しいのですが、組合にとって今年の大きな課題ですのであえて記させていただきます。

昨年11月にもFAXにて皆様にご説明いたしましたが、当組合の財政状況は共同購買事業、共同駐車場管理事業の大幅な減収の中で、危機的な状況に追い込まれようとしています。

2〜3年前と比較すると両事業で約150万円の減収となっています。今年度は会館管理運営積立金及び指導教育事業繰越金で120万円の特別な収入を得て何とか予算を組みましたが、23年度は赤字決算の予算を組みざるを得ない状況です。今年度は組合の安定的な運営のため賦課金の見直しの検討をしてゆかざるを得ないと考えております。今後、アンケートや説明会を開催して皆様の多数のご意見を頂いていきたいと存じます。そしてその中では単に財政の話だけではなく組合の事業はこのままでいいのか?組合に皆様は何を求めているのか?さらには、この安原工業団地における組合の存在意義はなんなのか?といった事も考えていかなければならないと思います。ぜひ組合員としての皆様のご意見をいただきたいと思いますのでその節にはなにとぞ宜しくお願いいたします。

## 新年懇親会開催 福引大会で運だめし!!



新春恒例の組合・町会合同新年懇親会は平成23年1月6日(木)金沢都ホテル5階「加賀の間」で来賓を含め総勢76名の方々に盛大に執り行われました。

町会の総会もスムーズに終了し、次期町会長は(株)紙本鉄工の紙本敬章氏に決定いたしました。

今回の新年懇親会は金沢市より山野之義新市長が来賓として出席され安原工業団地に対する思いをこと細かくお話いただきました。

さらに今年から新年懇親会のイベントとして空くじなしの福引が行われ、来賓の方を含め出席者全員がおおいに盛り上がりしました。

23年度は明るい兆しが見え始めてはおりますが、まだま

だ注意深く見ていかなくてははいけません。丁度今年はいさぎ年であり、うさぎは前足が長く後ろ足が短いため坂昇りに適しているそうです。新年懇親会での盛り上がりをお忘れずに今年より明るく1年を過ごしたいと思います。

最後に、来年の懇親会は今年より多くの会員の方々に来てもらえるように頑張りたいと思います。(H・K記)

賞品協賛企業名

テルメ金沢、金沢都ホテル、ケーキハウスエンゼル、金沢丸善、JTB、きんしん、ヴィラグランディスウエディングリゾート、Y氏 計8団体(順不同)



### ～厳しい経営が続くが生産は下げ止まりの兆し 企業経営動向に関するアンケート調査報告～

今年度も恒例の組合員各社経営動向調査のアンケート結果が集計されました。

調査は全組合員196社を対象に1月14日に行われ、101社(51.5%)から回答がありました。調査結果の概要は下記のとおりです。

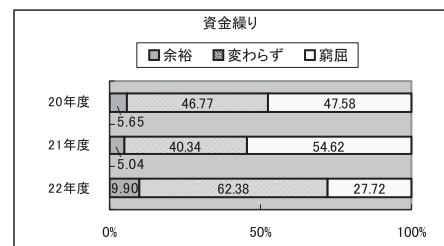
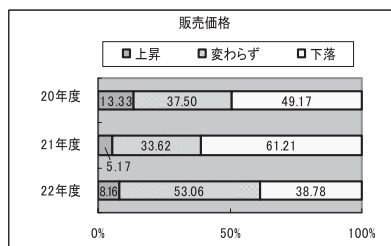
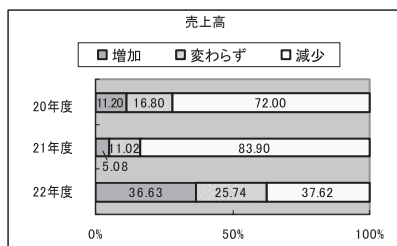
前年度調査と比較して、「売上高」は減少が37.62%(前年度83.90%)が前年度より大幅に減り、企業収益は改善している。「採算性」も悪化43.75%(同68.64%)、「資金繰り」で窮屈との回答は27.72%(同54.62%)と減り、「操業度」100%以上が24.49%(同8.85%)、「受注残」は1ヶ月以上は22.58%(同

12.96%)と増加しており、「販売価格」下落が38.78%(同61.21%)昨年度より回復のきざしが見えます。まだまだ厳しいですが、組合員各社の経営改善努力に期待します。

また、アンケート調査報告に併せて、「今後の組合運営並びに事業について」皆様の忌憚のない意見を求めた結果についてのまとめは下記の通りです。

おおむね賦課金の見直しについては肯定的な意見が多かったように思われるが、時節柄経費の増大は極力避けたいという事が全組合員の総意であると思われます。

事業内容を精査して組合員の皆様のニーズに沿った組合を作り上げていくためにも、広くご意見を求めて、共通認識を醸成した上で町会とも連携しながらこの問題に取り組んでいきたいと思っておりますので、組合員の皆様のお一層のご支援、ご協力を頂きたいと思っております。



### 健康管理の大切さを学ぶ 当組合から16名参加

平成22年8月20日(金)金沢市異業種研修会館において、金沢市工業団地連絡協議会、安原工業団地協同組合合同の「職場のメンタルヘルス研修会」を開催しました。

はじめに、米澤卓也会長が、経営者として安全安心ある職場づくりのためにも社員の健康を守っていかなくてはならないと挨拶されました。

講演では、石川産業保健推進センター派遣講師で認定

産業医の南昌秀医師が「健康管理で元気に生きる。突然死を防ぐ」をキーワードとして話されました。突然死は働き盛りの男性が特に多く、そのほとんどが動脈硬化の引き金となるメタボリックシンドローム(肥満、高血圧、高血糖、高脂血症)が原因であり、日頃からの自己管理の大切さを話されました。

また、福田洋一金沢労働基準監督官が「最近の事故の傾向を指摘する」と題し、事例と対策の指導がありました。



## 平成22年度金沢市工業団地連絡協議会先進地視察旅行

—— 伝統と革新のまち～燕三条磨きの旅 ——

11月12日(金)

安原工業団地協同組合メンバー 11名を含む全28名の参加にて金沢を出発、一路新潟へと向かいました。



燕三条地場産センターにて昼食の後、“磨き屋シンジケート”の代表格『小林研業』の視察を行いました。席上、小林社長より「地域全体で協力してレベルアップをはかり、新規顧客の拡大、大ロット受注への対応等により、競争力・共同受注力向上を目指している。」との説明を受けました。

その後、燕市産業史料館（世界のスプーン館）見学、続いて磨き屋一番館にて“後継者”の作業見学とチタン及びステンレス製マグカップ等の販売・購入後、新潟市内の夕食会場「鯨割烹丸伊」へと向かいました。

11月13日(土)

ホテルサンルート新潟を出発し、旧新発田藩十萬石・溝口家の庭園「清水園」（国指定名勝）を見学しました。兼六園に似た素晴らしい“回遊式”の紅葉が美しい庭園でした。

午後からは、東京電力柏崎刈羽原子力発電所を見学しました。東京ドーム90個分の敷地に合計7基の原発を有し、それらが稼働すると「821.2万kW」と世界最大の出力量を誇っています。海上に巡視船(?)が浮かんでいたのが印象的でした。

2日間を通じて、新・旧の様々な技術を見聞し、得がたい経験を勉強させて頂き、良き思い出とともに帰沢の途につきました。(N・I記)



### 世界に冠たる美術館を目指して 秋元館長、文化講演会で取り組みをアピール

組合の人気事業の一つである文化講演会は平成22年10月27日(水)午後6時30分から金沢市異業種研修会館で開催されました。講師には国内はもとより世界的に注目を集



めている金沢市21世紀美術館の第2代館長秋元雄史氏を招き、「人と美術をつなぐ～金沢市21世紀美術館の活動～」と題して講演を頂きました。今や金沢を代表する文化施設としての関心も高く、当日は当団地企業や地域住民など100名が会場を埋め尽くす盛況でした。

秋元館長は、「当市は世界に誇れる文化集積都市の一つであり、市民は日常生活自体が多様な文化に包まれているので、自覚しなくとも文化的素養が身についている。それを暮らしの中で地道に伸ばしてゆくことから歴史や文化の積みかさねができてゆく。そのためこの文化を子ども達に伝えてゆく取組みを重点事業にすえている。また、全国各地や世界に当館を発信し、パリのポンピドー美術館にも並ぶ近代美術館に育てたい。」と熱い想いを語られました。

親しみやすい人柄と、柔らかくずっと耳に入る語り口に、金沢市21世紀美術館がより身近に感じられた講演でした。(K.O記)

### 第31回安原工業団地協同組合主催 ソフトボール大会

平成22年9月5日(日)、安原小学校グラウンドにおいて、安原工業団地協同組合主催、安原工業団地町会協賛の第31回ソフトボール大会が開催されました。

13チーム（班チーム1）が参加し、猛暑の中、トーナメント戦で白熱した試合を展開しました。決勝では班チーム

が接戦を制して10対6で(株)米澤製作所に勝利しました。

なお、成績は下記の通りです。

- 優勝 班チーム（二・三・四班）
- 準優勝 (株)米澤製作所
- 第3位 (株)金石製作所
- 第3位 (株)ヤスジマ

青年部及び役員の皆様、選手の方々暑い中お疲れ様でした。

**青年部**
**活動報告**

青年部では新入部員を募集しております。情報などありましたら、是非ご一報いただきたく思いますので、宜しくお願いします。昨年9月～今年2月までの活動について報告させていただきます。

**9月5日(日)**
**「ソフトボール大会」**

第31回ソフトボール大会の経営・運営をさせていただきました。

猛暑の中、白熱した試合が展開され、班チーム(二・三・四班)が優勝しました。


**10月28日(木)**
**「加賀野菜 源助大根収穫祭」**

本年度も藤花幼稚園の園児たちと楽しく大根の収穫をすることが出来ました。今年は石川ミリオンスターズの選手も応援にかけつけてくださり、あいにくの天候でしたが、元気一杯の園児達と共に大根を抜いていき、収穫する喜びを感じていただけた様です。今年度の源助大根は例年に比べて大ぶりながら大変おいしかったと思います。組合の皆さんにも喜んで頂けたと思います。来年度も行う予定ですのでご協力お願いします。


**11月29日(月)**
**「金沢ものづくりセミナー」**

金沢市大手町のKKRホテル金沢で開催された金沢市工業団地連絡協議会、金沢市産学連携事業運営委員会共催事業のセミナーに5名が参加しました。

パナソニック電工参与で金沢工業大学客員教授の小畑外嗣さんが「グローバルで勝つモノづくり立国」と題し、日本のモノづくりの現状と世界の製造業トップに日本が返り咲くための必要な改善点などを話され、参加した私達も勉強になりました。

本年度の新年会は開催しませんでした。より皆さんに参加していただける企画を考えて行き、案内申し上げたいと思います。

本年度の最後の事業として、3月12日(土)、13日(日)に宮城県視察旅行を計画しております。これをもって今年度は終了となりますが、日頃からの組合員皆様のご理解、ご協力のお陰と感謝しております。

来年度もよろしく願いいたします。

**女性部**
**活動報告**
**平成22年9月28日(火)、29日(水)**

レディース中央会全国フォーラムin東京に女性部より3名参加しました。会場は、ANAインターコンチネンタルホテル東京で、基調講演は、講師大宅映子氏(評論家・財団法人大宅壮一文庫理事長)でテーマは「今後の日本経済・社会と女性が担うべき役割」と題して講演をして頂きました。その後、3分科会に分かれました。分科会は「女性部の活性化分科会」「ものづくり分科会」「観光・まちづくり分科会」がありこの中からものづくり分科会に参加しました。テーマは「ものづくり分野における人材育成と女性経営者の視点」という題で講演をして頂きました。

**11月27日(土)**

女性部事業の一つ、緑化推進による幹線道路のプランターに葉ボタンを植え替えました。

**12月1日(水)**

会員にポインセチアを贈呈しました。

**平成23年2月18日(金)**

24名が参加し、第2回研修会を「ヴィラグランディス ウェディングリゾート」にて、フリージアやストック、葉ボタンの栽培に取り組んでおられるJA金沢市砂丘地集出荷場フラワー部長西村俊雄氏に講演して頂きました。安原はもともとスイカ、大根の名産地ですが、昭和63年頃より砂丘地でお花の栽培も始められたそうです。野菜物と集荷が重なり栽培農家が減り、ハウス栽培で出荷をずらすことで栽培する人も増え、安定した供給が出来るようになり需要も増えて来たそうです。

安原地区の切り花葉ボタンの品種が、ニューヨークの展示商談会に初出品され、国内では正月花としての引き合いも多く、金沢ブランドで名前が知られて来るとますます需要が増えてくるのではと期待されているとの事だそうです。ためになるお話が聞けました、その後西村氏を交えて懇親会を開き和やかに好評にて終了しました。

西村氏より会員にお花のプレゼントをいただき、全員お喜びでした。


**あ と が き**

本田宗一郎氏の言葉に「恐れなくてはいけないのは、失敗を恐れて何もしなくなる事だ」とあります。底は打ったものの、日本経済の見通しは依然として厳しいものがあります。しかし、高くジャンプする為には、一度、かがまなければいけません。こんな時こそ、果敢に挑戦しようではありませんか！仕事を楽しみましょう！ (H・I記)

発行責任者 米澤 卓也  
編集委員 池田 秀樹、池野 菊枝、岩上 伸人  
大平 邦久、北村 直樹、越野 英司  
田中 泰、入口 吉男、山口美枝子